

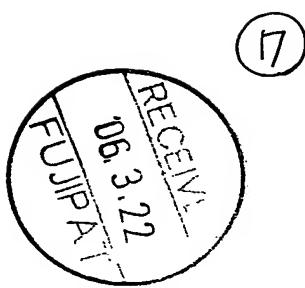
特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)

[PCT36条及びPCT規則70]



出願人又は代理人 の書類記号 PCT01-05014	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2005/005643	国際出願日 (日.月.年) 22.03.2005	優先日 (日.月.年) 30.03.2004
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. H01J1/312 (2006.01), H01J9/02 (2006.01), H01J31/12 (2006.01)		
出願人 (氏名又は名称) バイオニア株式会社		

国際予備審査の請求書を受理した日 27.01.2006	国際予備審査報告を作成した日 09.03.2006
名称及びあて先 日本国特許庁 (I P E A / J P) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 松岡 智也 電話番号 03-3581-1101 内線 3226 2G 3107

第1欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

出願時の言語による国際出願

出願時の言語から次の目的のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文

國際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))

國際公開 (PCT規則12.4(a))

國際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

出願時の国際出願書類

明細書

第 1-30 ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

請求の範囲

第 2-4, 6-16, 18-21, 23-28 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT 19条の規定に基づき補正されたもの
 第 1, 5, 17, 22 項*、27.01.2006 付けて国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、付けて国際予備審査機関が受理したもの

図面

第 1/16-16/16 ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、付けて国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、付けて国際予備審査機関が受理したもの

配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. 補正により、下記の書類が削除された。

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表 (具体的に記載すること) _____
 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

4. この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかつたものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表 (具体的に記載すること) _____
 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-28	有
	請求の範囲		無
進歩性 (I S)	請求の範囲	1-28	有
	請求の範囲		無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲	1-28	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1 : JP 2004-503061 A (エコル ポリテクニック フェデラル ドゥ ローザンヌ) 2004.01.29
【0021】-【0023】、【0027】-【0028】段落、第1、3図
文献2 : WO 2003/049132 A (PIONEER CORPORATION) 2003.06.12
文献3 : JP 2000-188058 A (キヤノン株式会社) 2000.07.04

・ 請求の範囲1-28

請求の範囲1-28に記載の発明は、文献1-3に対して、新規性および進歩性を有する。

上記文献1-3のいずれにも、互いに独立して形成されるとともにその間に空間が形成された電子放出素子において、前記空間をブリッジ部で跨って上部電極が延在すること、および当該ブリッジ部に貫通孔又は切り欠き部を形成することは、記載も示唆もされていない。

第VII欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

・ 請求の範囲 9 – 10

請求の範囲 7 を引用しない請求の範囲 9、ならびに請求の範囲 7 および 9 を引用しない請求の範囲 10 においては、「前記電子供給層」なる用語の記載より前に「電子供給層」に関する記載は全くされていないため、「前記電子供給層」が電子放出素子のどの層を指しているのかが明確でない。